

令和6年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第6回専門部会（テーマ別分科会） 議事要旨

日 時 令和6年12月10日（火）15:30～17:00
場 所 岐阜市役所6階6-1大会議室
出席者 一般・特定・障害児相談支援事業所 17名
委託事業所 4名
(合計 21名)

○検討テーマ…

「災害時の支援について ～ 防災対策と個別避難計画 ～」

2011年の東日本大震災では、障害者手帳を持つ人の死亡率が全住民の死亡率の2倍に上ったとの調査結果があり、2016年の熊本地震でも多くの障害者が必要な支援を受けられずに孤立した。また、能登半島地震では長引く避難生活で、生活環境が悪化し、大きな負担となっている。

岐阜市においても大規模な災害が起きる可能性があり、障害児者が取り残されることがないように、あらかじめ備えておくことが必要である。

令和4年度第7回専門部会で緊急時や災害時に活用できるサポートブックの内容について協議を行い、令和5年度第1回では、サポートブックの活用方法について協議を行ってきた。

今回は、岐阜市における防災対策について、都市防災部防災対策課からの説明と災害時を想定した個別避難計画の作成について協議した。

1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第6回専門部会（テーマ別分科会）の趣旨や流れについて

2. 岐阜市の防災対策について（都市防災部 防災対策課）

- ・避難所、避難行動要支援者名簿、個別避難計画についての説明
- ・個別避難計画作成、運用について説明

参考）岐阜市個別避難計画 作成・運用について【資料1】

個別避難計画書案（記入例）【資料2】

3. グループワーク

以下について、意見を出し合った。

<主な意見>

個別避難計画書（様式）について

（自主防災組織が作る個別避難計画との差別化を目的に、相談支援専門員の視点や専門性で、個別支援計画（様式）の改善点について）

- ・作者氏名に事業所名も含めるとよい
- ・顔写真が貼れるとよい
- ・薬に関しては保管場所も記載したほうがよい（服薬の状況を貼れるようにする）

- ・緊急連絡先) →住所の下に記載を変更、できれば3人の欄があるとよい
- ・自治会の避難所や一時避難所→福祉避難所の明記
- ・配慮がわかりやすいように色を変える
- ・様式が身体、介護に寄っている。三障害(身体障がい、知的障がい、精神障がい)に対応したものであるとよい

個別避難計画を作成することを想定して課題となるであろうこと

- ・個別避難計画書が絵に描いたもちにならないようにしなければならない
- ・実際にシミュレーションしておいたほうがよい
- ・避難行動の具体的なイメージがつかない為記入しづらい
- ・避難場所まで行けない場合
- ・様式中の「支援者同意」(実際に避難時に支援できることの同意)をとるのが難しそう
- ・(相談支援専門員、支援者、当事者に)個別避難計画作成への理解
同意を得られないことにより、計画が必要な人が最初の段階で漏れないのか疑問
- ・優先度Aの中の受け持ちケース中の優先順位を立てる必要がある
- ・相談支援専門員が関わっていない方はどうするのか
- ・個人情報誰が保管するのか
- ・災害の想定される程度によって記入量が変わってくる
- ・地域の方に知ってもらうためにどうしたらいいか、地域の方と一緒に考えたい
- ・相談支援専門員全員がきちんと理解して、自治会との連携の場を作る
- ・相談支援専門員が計画作成に労力をかけられるか
- ・個別避難計画書を使用するタイミングが分からない(どうなったら使用するか)

相談支援専門員として実際に災害時に何ができるか

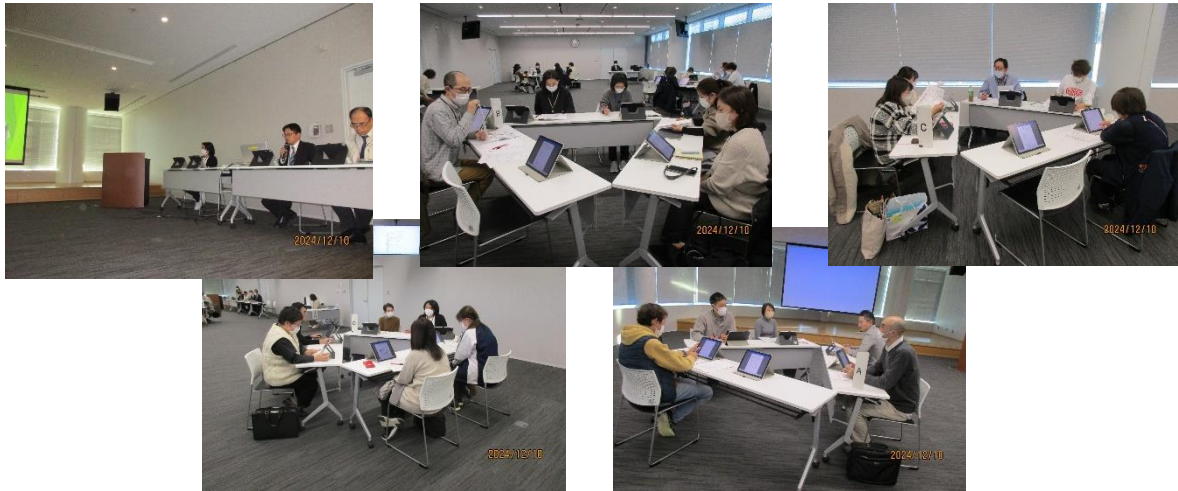
- ・担当から利用者への連絡
- ・事務所の公式ラインがあるため、全員にメッセージを送り状況を確認すること
- ・ご本人に対する避難の教育もいる。災害について、自分たちも勉強していく
- ・情報収集しかできない
- ・災害時にリスクが高い利用者(障害が重い、独居、非難の情報を得られにくい人)はあらかじめリスト化しておいたほうがよい
- ・誰を、何を優先するのかむずかしい
- ・自分の法人、事業所が福祉避難所なのか、災害時にどのような想定をしているのか知らない。これを機に知ろうと思う
- ・連絡を取りたくても事務所に個人情報がある為、事務所まで行かないと連絡できない。しかし、災害時に自分の身、家族、近しい人が優先になる為、利用者(あえて利用者という表現)はあと回しになるかもしれない
- ・災害時、利用者のことは気になるが、近所の知らない要支援者が助けを求めてきて、その方を受け入れると、本来受け入れなければならない自分の事業所の利用者が受け入れられなくなった場合のことと等考えると、どこかで心を鬼にしなければならない時が来る。事業所としてルールを決めておいた方がよいかもしれない

・福祉避難所のリアルを知ること (書いてあることと、実際は異なる場合がある。受け入れ人数とか等々)
その他 ・(極論だが一理あり、なるほどと思った意見) このご時世、助け合いの精神は崩壊しつつある。近所付き合いや自治会の役割も低迷している。災害時、要支援者を避難所まで運べば〇〇円、救助すれば〇〇円等々、関わったレベルに応じて報酬を払う仕組みがあってもよいかも。賃金が発生すれば、柔軟な発想も生まれやすい。例えば、飲食店などを経営している方だとして、「うちに避難すれば水、食料はある」となったとして、その飲食店に〇〇円支払うみたいな。極論ですが、今の世なのかお金なのかかもしれない。と思ってしまうほど世の中は世知辛い ・事業所が立てている BCP との紐づけ、つながりはどうか。BCP で聞き取りしている内容と変わらない。地域生活支援拠点の緊急時の書面とも情報が重なっている。一体化しないと紙ばかり増える。各事業所が立てる BCP をもう少し生かせばいいのではないか。BCP と一体的にやれると省力化もできてよい ・災害時、相談支援専門員が被災している可能性がある。支援者や相談支援専門員ありきで計画を立てているのが問題である。市が支援者に委ねないこと。結局のところ、公民館や学校など身近に飛び込んで対応可能な、設備がある避難所がないとダメである(避難場所となる最寄りの小学校では、医療的ケアが必要な方に対するコンセンタが無。市がまず設備のある避難所を作らないといけない。)。コンセンタが無なら発電機の数があればよい ・医療的ケア児者については届け出が出してある。救急隊に出すしくみが既にある。受け入れ先の病院リストも作ってある。避難所をあてにしていない。また、家でも災害時の備えはしてある。問題は精神や強度行動障害の方などである ・計画書作成よりも、まず設備を整えるべき。避難所の設備は足りているのか ・疑問は多いが、よく言えば防災を考えるきっかけにはなるか

4. まとめ

- ・様式は、三障害に対応したもので、配慮がわかるように色分けし、写真や処方箋等を 添付する欄があるとよい。
- ・作成の優先順位等を示し、必要性を伝えつつ、本人とその家族や支援者等に同意を得られやすくする必要がある。
- ・負担のないように作成していくため、受け持ちケースの中の優先順位や他の計画や様式と一体化できるところも検討しておけるとよい。
- ・作成して終わりではなく、実行性のあるものにするため、地域の方や支援者等と一緒に作成することもよい。
- ・作成することで必要な設備等が見えてくるため、防災を考えるきっかけとなる。

5. 当日の様子



6. 当日アンケートの結果

①本日の専門部会について

良かった	…	8.	3 %
概ね良かった	…	4 1.	7 %
普通	…	4 1.	7 %
あまり良くなかった	…	8.	3 %
良くなかった	…	0.	0 %

②個別避難計画書について理解を深めることが出来たか

理解できた	…	8.	4 %
概ね理解できた	…	2 5.	0 %
普通	…	5 8.	3 %
あまり理解できなかった	…	0.	0 %
理解できなかった	…	8.	3 %

③グループワークの時間

良かった	…	8.	3 %
概ね良かった	…	8.	3 %
普通	…	6 6.	7 %
あまり良くなかった	…	1 6.	7 %
良くなかった	…	0.	0 %

④防災対策についてのご意見

- ・避難計画書の運用方法が分からなかった。大変勉強になった。
- ・利用者さんと防災について話したことがなかったので、次回モニタリングからは、話していきたいと思った。

- ・計画を立て、共有する事は大切だと思うが、今回の事もそうだが色々な部署で作成されているものと重複している。作成する事ではなく、どう活かしていくかが具体的になるといいと思った。又、災害時は支援者側も被災者になりえる。それも踏まえた計画が必要なのではないかと感じている。身近な支援者のみの想定ではなく、広く支援を求める際の情報の一元化、行動計画があると良いと感じた。
- ・精神障害、発達障害者児が要支援者から漏れてしまうのではないかという懸念がある。
- ・医療的ケア児などを対象にした実際の避難訓練を行いたい。
- ・個別避難計画書作成者を相談支援者が担うことは適切でない。
- ・エリア別に設置されている基幹相談支援サテライトで各エリアにおける避難者情報を把握しておく方法がベストだと考える。
- ・障害者自身がどの避難所へ避難したら良いか知らないという声がきかれる現状にある。障害者福祉において、福祉避難所の場所を市民に公開し、伝えることが必要である。
- ・福祉避難所は遠方ではなく、地域で身近に避難できる福祉避難所を多く設置することが第1に必要なと感じる。
- ・他の被災地の現状やアドバイスも参考にして欲しい。被災していない者では、考えが及ばない点もあると思う。本当の情報(福祉避難所の受け入れ内容等)を公表し、事前に入所するであろう人を登録してはいかがか。それ事態が安否確認にもなると思う。
- ・重度の障害者にとってまずは避難所までの移動手段の確保が難しいと思われる。今回の個別計画書案にあるような情報の共有により、在宅避難の場合の支援物資の確保や適切な福祉避難所への案内、誘導などがスムーズにできるようになるのであれば作成に意味があると思う。共有先によってはただの個人情報のばらまきになるため共有先の絞り込みが必要と感じた。
- ・どのような災害、どの程度の災害レベルで誰がいつ動くのかがわからなかった。個別避難計画を実際に利用する際の流れが、提示されていた図だと大まかすぎて、普段は誰が計画書を保管しているのか、災害時には誰の判断や指揮命令下で動くのか体制がわからなかった（これは公助という捉え方で良い？）。避難場所のある各地域ごとの責任者？自治会長？の障害への理解度で対応が変わってしまうのではないかと→地域ごとの勉強会やこういった会への参加の呼びかけなど。避難訓練ができるといいだろうが、せめて自分の避難先の設備を知れるといいのではないかと（それらを活用できるかどうか、場合によっては自分たちで予め用意しておくものが明確になるかも）。
まずは自分なりに考えて動いて行くことが必要である。
- ・避難経験のある事業所とか、個別避難計画書を作成した人の意見を取り入れた方がいい、実際したことないものにはわかりにくい、毎年町内で提出するが、皆毎年面倒、危機感はない、適当に書いている人が多い。

⑤障害者総合支援協議会（テーマ別分科会）で、今後取り上げて欲しいテーマ、内容等

- ・毎回開催だけで、話し合いがその後どのように生かされたのか、または実現出来なかった理由とかも知りたい。
- ・もし個別避難計画書を作成するのであれば、何回も集まってやってほしい。